

# メイ英首相辞任と欧州議会選挙

## ポイント① 強硬離脱派新首相選出の公算

5月24日、メイ英首相はEU(欧州連合)離脱を巡る混乱の責任を取って6月7日に保守党党首を辞任し、新党首選出時点で首相も辞任することを表明しました。5月23～26日の欧州議会選挙ではEU強硬離脱を主張するブレグジット党が英国国内で第1党となる一方、保守党は惨敗しました。保守党内で支持回復に強硬離脱派の新首相が必要との声が高まりそうです。しかし、強硬離脱派の首相が選出されれば、EU離脱を巡り、英国議会内の論議や対EU交渉における混乱や対立が激しさを増す可能性があります。

## ポイント② 親EU派としては過半数を確保

欧州議会選挙全体を見ると、EUに懐疑的なポピュリスト政党が議席を伸ばした一方、欧州議会第1・第2会派のEPP(中道右派)とS&D(中道左派)は議席を減らしました。しかし、中道リベラル派を含めれば親EU派としては過半数の議席を確保しました。ポピュリスト政党間のまとまりが欠けることなどから、今回の選挙で欧州政治が直ちに大きく変化することはないでしょう。経済・金融市場への影響も、英国のEU離脱を巡る混乱が既に市場にかなり織り込まれていることなどから、限定的と見られます。

## ポイント③ 欧州では既存政党の弱体化

ただ、英国に限らず欧州では既存政党の弱体化は否定できません。ポピュリスト政党、環境政党、各国内の地域政党などが影響力を強め、各国の意見が割れたり、EUへの不満が高まりやすくなると考えられます。

このため、欧州の分裂を防ぐ意味合いから、欧州委員会が各国の財政政策の弾力化を容認したり、ECB(欧州中央銀行)の金融政策がインフレ抑制より景気維持に重点を置くようになる可能性があります。

図1：欧州議会選挙英国分の党派別得票率・議席数

	2019年選挙		2014年選挙	
	得票率	議席数	得票率	議席数
ブレグジット党*	31.7%	29	26.8%	24
自由民主党	18.5%	16	6.7%	1
労働党	14.1%	10	24.7%	20
緑の党	11.1%	7	7.7%	3
保守党	8.7%	4	23.3%	19
その他	15.9%	7	10.8%	6
合計		73		73

(注) 2019年は5月27日現在暫定結果

(注) \*2014年選挙は英国独立党の得票率と議席数

(出所) 欧州議会データより野村アセットマネジメント作成

図2：欧州議会選挙会派別議席数

	2019年	2014年
EPP(中道右派)	178	221
S&D(中道左派)	153	191
中道リベラル会派	105	67
環境政党	69	50
EU懐疑派	213	170
その他	33	52
合計	751	751

(注) 2019年選挙は5月28日現在暫定結果

(注) 2014年は選挙直後の会派移動を反映した議席数

(出所) 欧州議会データより野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

6月4日 ユーロ圏 失業率(4月)  
6月6日 ユーロ圏 金融政策発表  
6月7日 メイ英首相、保守党党首辞任

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。